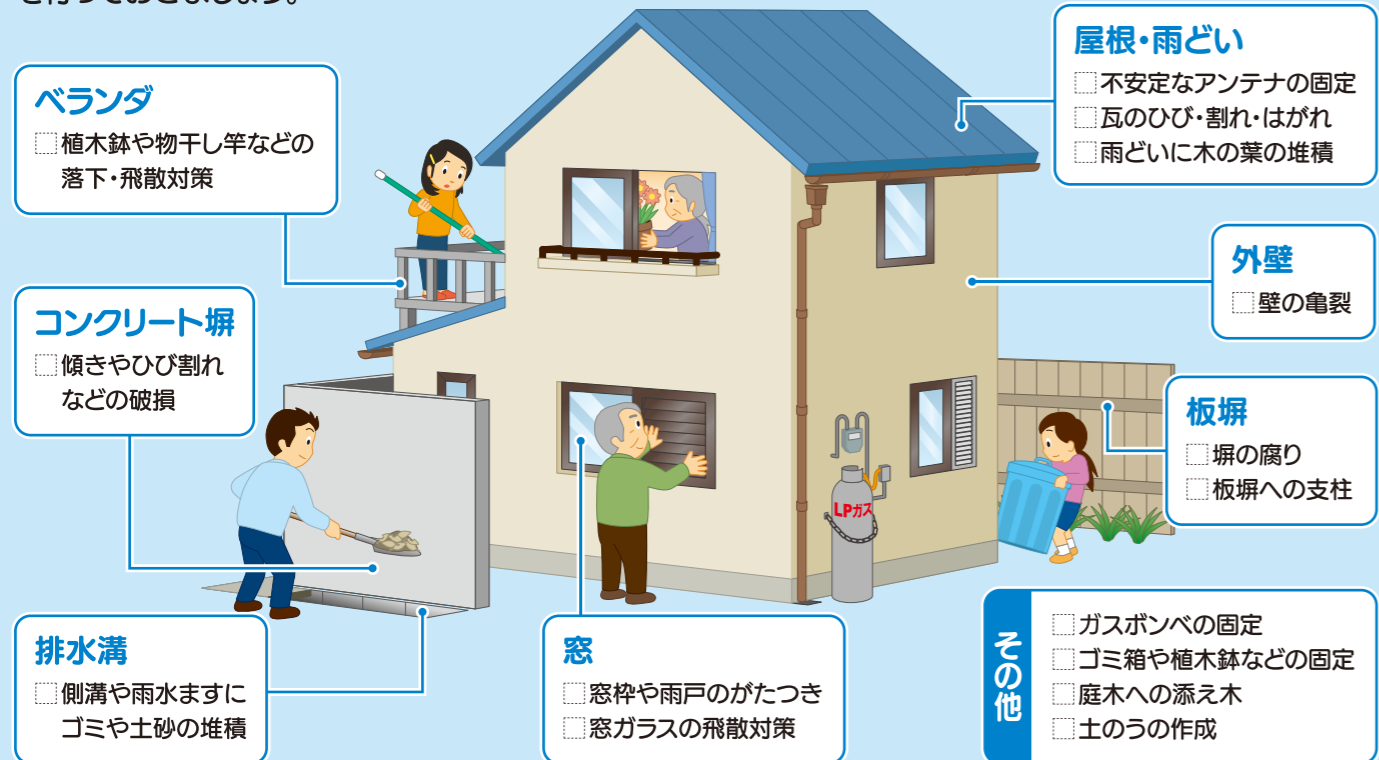


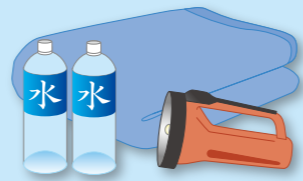
## ▶ 家庭での備え

風水害による建物の被害を抑えるため、下のイラストを参考に、日頃から建物やその周囲の点検・修理・補強を行っておきましょう。



## ❗ 台風時の停電への備え

台風時には被災状況によって停電が長期化することがあります。停電や停電に伴う断水に備えて、懐中電灯、防寒具、飲料水などを準備しておきましょう。



## 水害が発生した場合、特に注意が必要な場所

### 地下

外からの浸水で水没する可能性があります。早めに避難しましょう。



地上が冠水すると、一気に地下に水が流れ込みます。



浸水による漏電で、電灯が消え、エレベーターも使えなくなります。



水圧で出入り口が開きにくくなる場合があります。



時間が経てば経つほど地上の様子が分からなくなります。

### アンダーパス

鉄道や立体交差などで路面が低くなっているところは、水のたまるおそれがあるので、入らないようにしましょう。

普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。



### 川

急に空が暗くなったり、雷が鳴ったりすると、増水する危険性があるので河原に近づかないようにしましょう。

### こんなときは要注意

川の水が増えてきた

雨が降ってきた

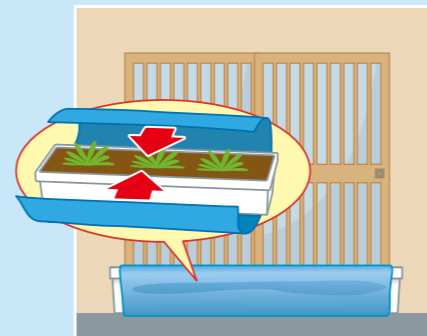
雷が聞こえた

急に空が暗くなってきた

遊びに行くときは、川の上流の天気予報もチェックしておきましょう。

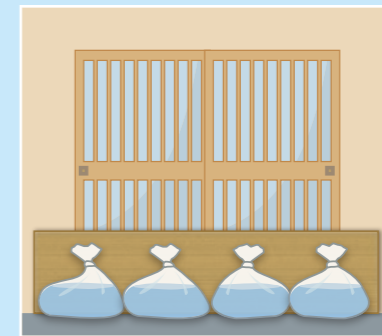
## ▶ 家庭でできる簡易水防 浅い浸水に効果的

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを利用して、浸水を防ぐことができます。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



### 簡易水防工法例① プランター＋レジャーシート

土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。

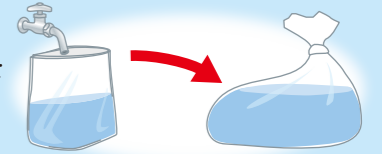


### 簡易水防工法例② 簡易水のう＋止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入り口に設置し、浸水を防ぎます。

### 簡易水のうの作り方

家庭で使用しているゴミ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。



## ▶ 局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守るために

近年、急激に発達した積乱雲がもたらす局地的な大雨(ゲリラ豪雨)による災害が発生しています。このような災害は、雨による災害への警戒・注意を促す大雨警報・注意報が発表されないときでも起こることがありますので、川の中や川の近くにいるときは注意が必要です。

このような場所では、天気の急変に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください



## ▶ 浸水表示板を確認



三宅町では、河川の氾濫により浸水した場合の水の高さを示す表示板を、電柱に設置しています。日頃から想定される浸水の深さを確認し、お住まいの地域の浸水リスクの把握にお役立てください。